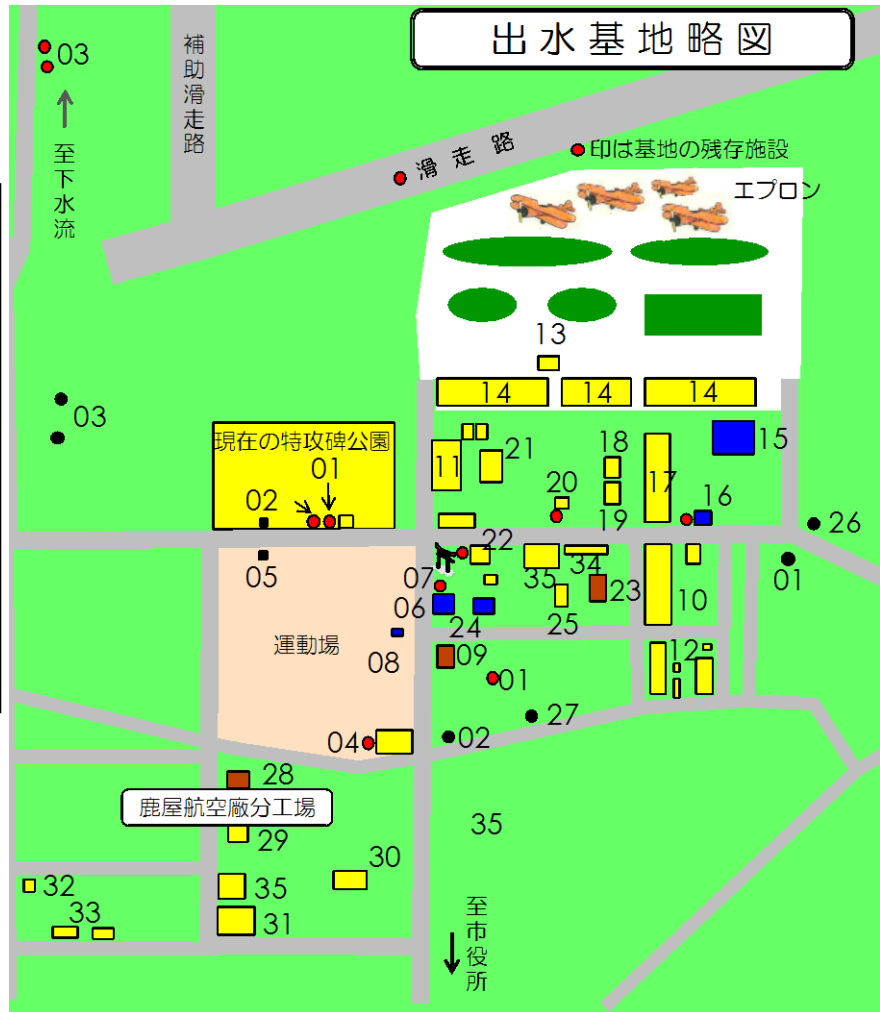
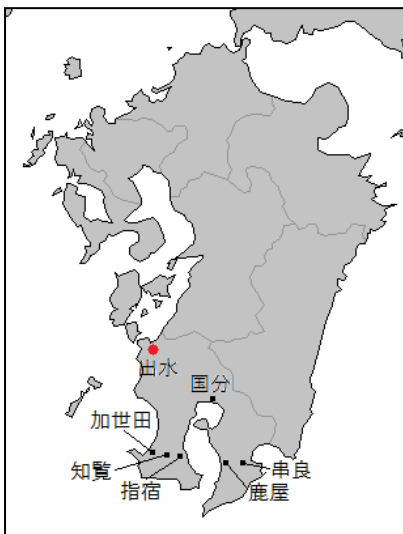


いずみ

出水の戦争遺跡 遺跡を通して学ぶ平和学習

第二次世界大戦中、出水には旧海軍航空基地が置かれていました。そして今もなお、この時代の基地施設跡が、まるで私たちに何かを訴えるかのように、当時の姿のまま集中して残っています。出水に残されたこれらの貴重な戦争遺跡を通して、過去の戦争について学び、未来の平和について考えてみましょう。

鹿児島県内の特攻基地分布図



※右上の図中の番号は下記の施設を示しています。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|--------------|
| 01 地下壕 | 10 搭乗員宿舎 | 19 木工場 | 28 守衛本部 |
| 02 衛兵塔 | 11 兵舎 | 20 ボイラー室 | 29 補給所分工場事務所 |
| 03 掩体壕 | 12 病舎 | 21 烹炊場 | 30 補給物資置場 |
| 04 気象観測所 | 13 飛行指揮所 | 22 揚水機 | 31 修理工場 |
| 05 正門 | 14 格納庫 | 23 武道館 | 32 守衛詰所 |
| 06 本部庁舎 | 15 発動機調整場 | 24 プール | 33 部品倉庫 |
| 07 軍艦旗掲揚台 | 16 発電所 | 25 落下傘収納庫 | 34 倉庫 |
| 08 号令台 | 17 整備工場 | 26 無線受信塔 | 35 車庫 |
| 09 士官舎 | 18 金工場 | 27 機銃座 | |

● 出水海軍航空隊

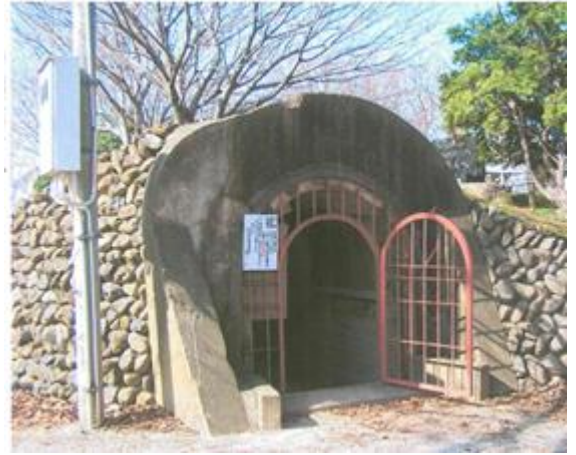
出水における飛行場建設は昭和13年(1938年)頃から行われ、昭和15年(1940年)から飛行機の発着が始まりました。昭和16年(1941年)4月1日には佐世保海軍航空隊出水分遣隊が置かれ、昭和18年(1943年)4月1日に出水海軍航空隊として開隊されました。

当初は教育航空隊でしたが、昭和20年(1945年)実際の戦争を進める部隊がこの基地を使い始め、戦況が不利になるとともに特別攻撃隊の基地として使用されました。260名を超える多くの特攻隊員(ほとんどが17歳から24歳までの青少年)がフィリピンや台湾、沖縄など南方の空や海に散ることとなりました。

● 地下戦闘指揮所 (位置:特攻碑公園内)

敵の本土空襲が避けられない状況になった昭和19年(1944年)初め、主要な作戦施設は地下壕や航空隊の外に移されました。この地下壕は、壕内に通信施設を設けた戦闘指揮所でした。

航空隊の隊門近くに設置され、壕の出入り口は4箇所設けられていましたが、現存しているのは2箇所だけです。



● 慰霊塔「雲の墓標」 (位置:特攻碑公園内)

昭和35年(1960年)4月に建立除幕された戦没者の慰霊塔です。碑正面の碑銘に記されているのは、小説「雲の墓標」(阿川弘之著)による特攻隊員の遺書です。

「雲こそ 我が墓標
落暉(らつき)よ 碑銘(ひめい)をかざれ」

解説

「沖縄の海の底深く身を沈めるからには、もちろん遺骨などあがろうはずがない。自分は墓もいない。大空に浮かぶ雲こそ自分の墓だ。美しい夕陽よ、もし慈悲の心があるなら自分の墓である雲を紅く彩ってくれ」



●プロペラ （位置：特攻碑公園内）

3枚羽のものは、昭和20年(1945年)4月26日出撃した一式陸上攻撃機の左エンジンのプロペラであり、桂島沖から漁船により引き上げられたもので、当時の乗員の遺体は長島沖で発見されました。

また2枚羽のプロペラは、陸軍九七輸送機のもので、同じく漁船の網に引っ掛けて引き上げられたものですが、当時の事情は不明です。



●じゅんこく えいれいひ 殉国の英霊碑 （位置：特攻碑公園内）

「雲の墓標」を建てた目的は、「特別攻撃隊員として戦死した方の霊をなぐさめ、たたえること」でした。

しかし、出水航空隊に関係ある飛行隊は、特別攻撃隊以外にも数多くあり、また特別攻撃隊と変わらない激しい戦場で戦い、戦死した搭乗員たちであるため、「同じ戦場で戦った方々も同様にたたえるべきである。」という声から、638名の御氏名を刻んだ碑が、戦後50年を経た平成8年(1996年)4月に建てられました。



りっこうたい ぎんがたいしゅつげき いしづみ
●陸攻隊・銀河隊出撃の碑 (位置：特攻碑公園内)

出水海軍航空隊に関係した飛行隊は多く、その飛行機の種類も陸上攻撃機や戦闘機に至るまで様々でした。これらの飛行隊の中には出水基地を本拠地あるいは派遣隊基地とするもの、または中継地とする隊もありました。

銀河隊は鳥取県的美保基地に移動するまでの間、出水基地を本拠地としてフィリピン、台湾沖、沖縄戦など重大局面の作戦に出撃していきました。また陸攻隊は松島(宮城県)、豊橋(愛知県)航空隊から「出水部隊陸攻隊」として出水に駐留、沖縄戦を戦いました。このことを記念して平成7年(1995年)4月に建てられたものです。



えいへいとう
●衛兵塔 (位置：特攻碑公園内)

航空隊正門通路(現桜並木)に直面して建立され、通行者の監視と警戒に当たりました。見張りには、衛兵伍長の指揮の下、兵が当たりました。衛兵は常に銃を所持し、下士官・兵の敬礼には「気を付け」の姿勢をとり、士官の通過に対しては「捧銃」の礼を行いました。

この衛兵塔は現在位置より南に(約30メートル)あったものを移設したのですが、爆弾や機銃掃射による弾痕が生々しく残っています。



とっこうじんじゃ
●特攻神社



特攻神社には、太平洋戦争において飛行機で特攻攻撃を行い戦死した海軍航空隊員全員が神様として祭られています。

この神社は、海軍航空隊の基地内の神社として、昭和18年(1943年)創建されました。

きしょうかんそくじょあと
●気象観測所跡



航空隊設置当初は無線通信所として機能していました。出水航空隊が練習航空隊から作戦部隊の基地として使われるようになると、通信所は隣接の高尾野方面へ移設され、気象観測所として運用されました。

ひこうき えんたいごう ●飛行機掩体壕

昭和19年(1944年)サイパン島を失い、本土空襲の恐れが増し、国内の防空体制はいよいよ強化されてきました。主要な軍需施設や民間でも疎開が始まり、航空基地の周りには掩体壕の建設が進められ、この作業に旧制中学生も動員されました(勤労働員)。

写真は昭和19年(1944年)に飛行場周辺に建設されたもので、小型機用の掩体壕です。土のうを積み上げたふたのない掩体壕も数基作られましたが、戦後撤去されて現在3基が残っています。昭和20年(1945年)3月の空襲により60キロ爆弾の直撃を受け破壊され、多くの戦死者を出しました。



えんたいごう 掩体壕とは？

掩体壕は味方の飛行機を敵から守るために作られた、いわば「飛行機用の防空壕」です。コンクリート製や土塁のものがあり、掩体壕の上部には草が生え、上空から敵に見つからないように工夫されています。戦争末期になると全国の航空基地で造られ、現在でも残っているところが数箇所あります。

参考文献：出水市特攻碑顕彰会（2009）『特攻碑慰霊祭五十周年記念誌 出水海軍航空隊』

出水市鹿島自治会（2008）「出水海軍航空隊基地遺跡」

作 成：一般社団法人 出水民泊プランニング